

サステナビリティの考え方

ミネベアミツミのサステナビリティ



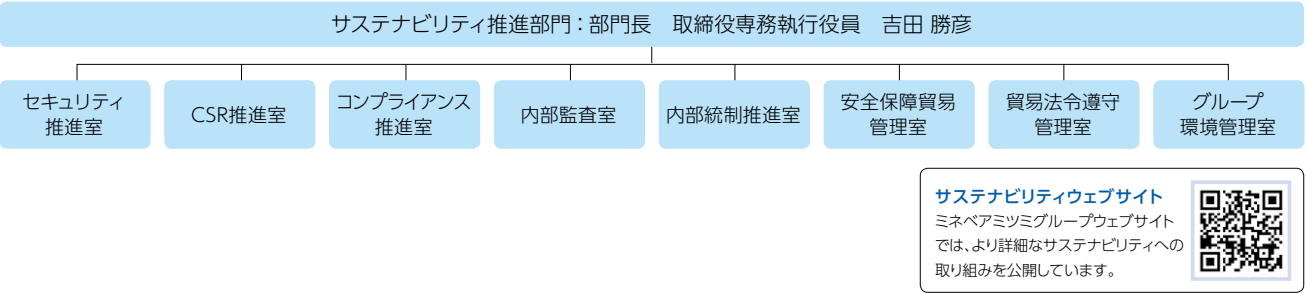
① 会社としてのサステナビリティ

経営の原点はサステナビリティにあり、サステナビリティの本質は有機的に結合できる物同士の多様性であると考えます。当社では、製品のみならず生産地、マーケット、技術開発などにおいて多角的な分散体制を構築し、磨かれたものが競争力の源泉となっています。このような事業活動の執行を取り巻く環境、社会、ガバナンス（ESG）に関する取り組みを強化して、持続可能な成長をしていくことができるよう、果敢に経営リソースを投入していく方針です。

② 地球・社会のサステナビリティ

一方で、社会を支える精密部品メーカーとして、「信頼性が高く、エネルギー消費の少ない製品を安定的に供給し、広く普及させる」ことを通じて、地球環境および人類の持続可能な発展に貢献してまいります。

サステナビリティ推進体制



重要テーマ・マテリアリティ（重要課題）について

当社では2019年、CSR視点で社会的責任を果たすことに重点をおいたマテリアリティを特定しました。

近年の、環境問題の関心への高まりなど外部環境の変化により、これまでCSRの視点からまとめられていたマテリアリティを、全社視点で戦略を遂行するための「経営課題」として見直しました。

重要テーマ 1	重要テーマ 2	重要テーマ 3
地球環境課題解決への貢献	社会を支える高品質な精密部品の創出	従業員の力を最大化

1. 「地球環境課題解決への貢献」とは、当社最大の強みである超精密機械加工技術と相合をいかした「環境貢献型製品による世界のCO₂排出量削減」であり、「事業活動による環境負荷の最小化」と両立させながら取り組みます。
2. 環境貢献に資する「社会を支える高品質な精密部品の創出」のために、「超精密部品の大量・安定供給体制の強化」と「責任ある調達の推進」に取り組むとともに、製造を中心とした事業の拠点においては雇用創出、地域住民との協働など「地域社会との共生」に取り組めます。
3. これら価値創造の源泉は当社の人材であり、「従業員の力を最大化」を目指して「グローバル規模の人材育成」と「グローバル規模のダイバーシティの推進」をはかるとともに、従業員が「働きやすい職場づくり」と「従業員の安全と健康」を推進します。

マテリアリティ（重要課題）への取り組み

重要テーマ 1	マテリアリティ	主な中期目標（2025 年度目途）
地球環境課題 解決への貢献	① 環境貢献型製品による世界の CO ₂ 排出量削減	● 製品による CO₂排出削減貢献量 約 230万トン (2031年3月期)* ● グリーンプログラムの売上高比率90%以上 (2029年3月期)*
	② 事業活動による環境負荷の最小化	● 自社の温室効果ガス排出量を売上高原単位で 2020年3月期比10%削減 (2026年3月期) ● 自社の温室効果ガス排出量を総量で 2021年3月期比30%削減 (2031年3月期)

* 製品のCO₂排出削減貢献量と、グリーンプログラムの売上高比率の進捗状況 P.59-60

重要テーマ 2	マテリアリティ	主な中期目標（2025 年度目途）
社会を支える 高品質な 精密部品の創出	③ 超精密部品の大量・安定供給体制の強化	● 精度大幅アップによる超高性能ベアリングなどの量産体制構築 ● 事業拡大による、新規分野の製品にも対応可能な、製品安全管理体制の強化
	④ 責任ある調達の推進	● 環境・人権問題を考慮したCSR調達ガイドラインの高度化(ガイドラインへのRBA基準の導入と、それに基づく自己監査の実施)
	⑤ 地域社会との共生	● 地域社会とのコミュニケーションの継続

④ 責任ある調達の推進 P.64

⑤ 地域社会との共生 P.66

重要テーマ 3	マテリアリティ	主な中期目標（2025 年度目途）
従業員の力を 最大化	⑥ グローバル規模の人材育成	● ミネベアミツミグループとしての統合効果をいかし、グローバルでの事業の拡大、発展を積極的に推進するための人材開発強化
	⑦ グローバル規模のダイバーシティの推進	● 新卒採用における女性の割合20%以上
	⑧ 働きやすい職場づくり	● 従業員が生き生きと働くための多様な働き方の実現
	⑨ 従業員の安全と健康	● 重大労働災害(死亡事故)ゼロ件 ● 定期健康診断受診率100%

従業員の力を最大化(マテリアリティ⑥～⑨) P.48

目標に対する実績、短期目標、すべての中期目標はこちらでご覧いただけます。

